

**第5次加西市総合計画策定  
市民参画ワークショップ会議**

**提 案 書**

**平成 22 年7月**



# 【目次】

第1章 雇用と経済が元気を取り戻す加西	1
アイデアシート1-1	2
アイデアシート1-2	3
01 市内に点在する直売所を観光情報とともに一体運営	4
02 加西を紫色のイメージカラーで染める	5
03 加西サービスエリアを情報発信の拠点に	6
04 ITスキルの向上、ビジネスホテルの誘致	7
05 若者や女性の新規就農者の発掘・育成	8
06 農地の賃貸借と農業経営の構築	9
07 彼岸花のまちづくり	10
08 神戸方面への公共交通の充実	11
09 加西産のお米を市民に支給！！	12
第2章 子どもが元気に育ち、いきいきと活動する加西	13
アイデアシート2-1	14
アイデアシート2-2	15
10 地域で考え、地域で行動する「地域会議」を設立	16
11 青少年のこころ豊かなふるさとづくり	17
12 地域に開けた学校施設と子どもたちとの交流	18
13 保育サービスの見直しと保育の申請手続を簡素化	19
14 地域全体で子どもたちを見守る仕組み	20
15 学校、地域、家庭が協力し合い、地域全体で子育て	21
16 土曜日の半日登校と放課後校庭のプレーパーク化	22
17 遊びから学ぶ環境学習	23
18 子どもたちによる地域自慢大会	24
19 ローカルコミュニティの拡充	25

第3章 誰もがみんな元気で安心して暮らせる加西	27
アイデアシート3-1	28
アイデアシート3-2	29
20 地域の力を発揮できるコーディネート機関を設置	30
21 安心して子育てできる医療環境を整備	31
21 安心して子育てできる医療環境を整備	31
22 子どものために公共施設を有効活用	32
23 野菜（加西産）の美味しいお店をオープン	33
24 保育サービスの充実による人口増対策	34
25 米粉を市民に広め、特産品として育てる	35
26 （仮）人材登録センターで、まちの元気を創出	36
第4章 地球に優しい環境社会をつくる加西	37
アイデアシート4-1	38
アイデアシート4-2	39
27 高齢者ための園芸交流広場を開設	40
28 河川清掃、廃油回収、ソーラーパネルの設置	41
29 里山整備と腐葉土基地を登録ボランティアで運営	42
30 地域の里山愛好会を結成	43
31 花咲く街角づくり	44
32 ふるさとの川と里山を守る	45
33 花や樹木を用いた沿道整備とBDF車両の導入	46
34 ソーラー発電所を鶉野飛行場跡地に	47
35 田畑復活を考える会を立ち上げる	48
36 豊かな自然教育と定住促進	49

第5章 市民参画・男女参画で地域を元気にする加西	51
アイデアシート5-1	52
アイデアシート5-2	53
37 市民が市政に関心を持ってもらうために	54
38 地域組織・市民グループの連携強化	55
39 各自治会で市民参画・男女参画の啓発を	56
40 外国人の視点を入れた安心・安全のまちづくり	57
41 高齢者の地域貢献、老人会による生産性の向上	58
42 企業誘致、農作物の販売体制の構築	60
市民参画ワークショップ会議について	61



【未来像 1】

## 第 1 章 雇用と経済が元気を取り戻す加西

---



アイデアシート 1-1

第1章 雇用と経済が元気を取り戻す加西			
現状（問題・チャンス）	課題	提案	
		主体（誰が）	具体的な提案（何を）
直売所ブーム	直売所を活用して加西への来訪者を増やす ↓ 「加西に来れば安全安心で新鮮なものが手に入る」イメージ作り	J A ・ 農業改良普及センター	積極的な広報 ・直売所情報誌を作成し集客の多い場所へ設置 ・市の広報誌やホームページでの積極的な告知 ・直売所利用者に評価してもらう ・観光施設やイベントとの連携（ついで来店者の増）
【現代農業】生産活動に見合う成果や収入になっていない ↓ やりがいを見出せない ↓ 農業に元気が無い	加西の農業に元気を取り戻す ↓ 加西の農業を一つのテーマで繋ぐ ↓ 全体で大きな力に	生産者 ・ 観光事業者 ・ NPO 等	色でまちおこし 例えば『むらさき』 [ぶどう・紫黒米・ラベンダー] [菖蒲・藤・玉ねぎ・キャベツ] [紫サルビア]など紫で全て繋げる ・北条鉄道沿線に紫の花を植える ・フラワーセンターに紫を集めた花壇を作る ・玉丘史跡公園に紫の芝桜と藤棚回廊を作り紫祭りをする（来訪者も紫の衣装で） ・紫を使ったお料理コンテストやお土産開発 ・北条鉄道の内装をぶどうをテーマに装飾する ・Wwoof で若者の活用
豊富な農業観光資源	農業観光資源の活用	市職員 O B	営農組合のリーダーを養成
サービスエリアが活用できていない	サービスエリアを情報発信源の場として活用		
地域ブランドがない 特産品がない	地域ブランドの育成 特産品の開発		B級グルメコンテストでの入選
里山の荒廃	地域ブランドの育成 特産品の開発	地域 (NPO) (営農組合)	観光農園を作る 間伐材で木工玩具を作りPR
インターネットの活用が進んでいない	光ファイバー網の整備 ↓ 市民のITスキル向上	市民	公民館にPC設置 ・中高年や高齢者へのIT教育拡充 ・ITによる情報発信サポート（パソコン教室等）
宿泊施設（ビジネスホテル等）の不足	中心市街地におけるビジネスホテルの整備	市役所	ビジネスホテルの誘致

アイデアシート 1-2

第1章 雇用と経済が元気を取り戻す加西			
現状（問題・チャンス）	課題	提案	
		主体（誰が）	具体的な提案（何を）
知名度のある地域ブランドが少ない	新種開拓・商品開発	加西ブランド協議会（JA） （商工会議所） （市役所）	活発な意見交換
農業のビジネスチャンス	新規就農者（若者・女性）の発掘・育成	4者連携（JA） （農業委員会） （農業改良普及センター） （市役所）	農業の専門家リスト作成 農業の専門家による公開講座（公民館活動） ・農業の魅力をPR ・女性がいきいき働ける農業を積極的にPR
耕作放棄地の増加	農地の賃貸借体制の構築	市役所	農地の賃貸借を斡旋する仕組みを構築し窓口を設ける
地域ブランド・特産品がない 新規就農者（若年層）がない	経営の視点を加えた新しい農業のあり方を模索	市役所 ・ 商業者 ・ 農業者	農業者と商業者が連携する機会を市が提供する

## 01 市内に点在する直売所を観光情報とともに一体運営

### 現状

現在は直売所がブームです。加西市は高速道路を有効利用できれば、京阪神からの集客が期待できるため、今後は直売所を積極的に活かすべきです。

### 課題

市内に点在している直売所をデータベース化し、効果的な広報活動を実施します。

### 提案

- ・ 直売所に関する情報誌を作成し、フラワーセンター、加西サービスエリアなど集客の多い場所に置きます。
- ・ 広報かさいやインターネット等で直売所情報を広く情報発信し、集客力を上げます。
- ・ 直売所の利用者には、購入した商品进行评估してもらうことで、改善を図り、より良いサービスが提供できる直売所を目指します。
- ・ 観光施設、様々なイベント、情報媒体が連携し、一体的に運営することによって、観光施設が目当ての観光客に対して直売所へ寄り道するよう誘導します。
- ・ 「加西に来れば、安全安心で新鮮なものが手に入る」というブランドイメージを作ります。

### 実行できる人

市役所、農協、加西農業改良普及センター

## 02 加西を紫色のイメージカラーで染める

### 現状

今の農業は生産活動に見合う成果や収入が伴わないことが多く、結果農業従事者にやりがいを持ってもらうことが、困難な状況にあります。

また、農業全体として元気がなくなっているのが現状です。

### 課題

フラワーセンター、北条鉄道、ブドウなど、加西のアピールポイントをテーマごとに具体化し、全体で大きな力に変えます。

### 提案

テーマは色でまちおこし！例えば『むらさき』。各分野の方の力を結集し、ブドウ・紫黒米・ラベンダー・菖蒲・藤・玉ねぎ・キャベツ・紫サルビアなど、紫色でまちおこしをします。

- ・ 北条鉄道には、車窓の景色にたくさんの花を植えてフラワー列車にします。
- ・ 北条鉄道の内装にはブドウをテーマにして、車内を飾ります。
- ・ フLOWERセンターには、『紫』を集めた花壇を作ります。
- ・ 玉丘史跡公園には、紫の芝桜と藤棚回廊を作り、公園の魅力をアップします。
- ・ 紫に染まった公園で紫まつりを企画します。お客さんも紫の衣装を身にまといま。
- ・ 特産品の開発では、紫を使ったお料理コンテストを開催し、お土産を開発します。

まちおこしには昼間に農業や作業が出来る若者の力が必要です。篠山在住で活動されている方から指導を受けてWwoof(ウーフ)<sup>※</sup>を実施します。

### 実行できる人

観光事業者・生産者・NPO等

<sup>※</sup> World Wide Opportunities on Organic Farms 「世界に広がる有機農場での機会」の頭文字。WWOOFは、有機農場を核とするホストと、そこで手伝いたい・学びたいと思っている人との間で、お金のやりとりなしで、「食事・宿泊場所」と「力」そして「知識・経験」を交換するしくみです。

## 03 加西サービスエリアを情報発信の拠点に

### 現状

加西市には地域ブランドがない、特産品がないとよく言われます。

しかし、あまり知られてはいないだけで、加西市にはすばらしい農業資源、観光資源が豊富にあります。地域資源の情報発信がうまく活用できていないという問題があります。

### 課題

- ・ 営農組合が中心となって観光農園活動等を進める必要がありますが、営農組合にはそれを実践するためのリーダーが慢性的にいない。
- ・ 地域資源を、広く多くの人たちに知ってもらうには、加西サービスエリアの活用が課題です。
- ・ 今流行の B 級グルメを活用する。

### 提案

- ・ 加西サービスエリアを情報発信の拠点とする。サービスエリアにおいて、加西市をアピールできる企画や催しを開催し、又加西市独自の商品を設置することによって、中国自動車道の利用者だけでなくテレビ等のマスメディアも活用しながら京阪神等の都市部に向けて積極的に情報発信を行う。
- ・ 農業について専門的知識を持つ市や JA 職員の OB が、営農組合のリーダーになるための教育を受けることによって、観光農園活動等が実施可能な営農組合をつくる。
- ・ B 級グルメに入選するために、入選のための傾向と対策を分析する戦略チームを組織する。

### 実行できる人

市役所、市や JA 職員 OB、営農組合、加西サービスエリアの関係者

## 04 ITスキルの向上、ビジネスホテルの誘致

---

### 現状

- (1) 近年里山が荒廃しています。
- (2) 都市部と比べインターネットの活用は進んでいません。
- (3) 三洋電機等の進出に伴い宿泊施設(ビジネスホテル等)が足りないのではないか。
- (4) 知名度のある地域ブランドが少ない状況です。

### 課題

- (1) 積極的に山林を活用することによって里山の整備を行うことが必要です。
- (2) 光ファイバー網の整備が必要です。市全体でのIT推進が急務です。市民のITスキルが、低ければ、情報発信しても埋もれてしまいます。
- (3) 中心市街地にビジネス用のホテルがありません。
- (4) 地域ブランドとなる新種・商品を開発します。

### 提案

- (1) 梅林園やぶどう園といった観光農園をつくります。  
伐採した間伐材で木工玩具をつくり、PRします。
- (2) 中高年・高齢者へのIT教育を拡充するため、公民館にPCを設置し、パソコン教室の開催等、ITによる情報発信についてのサポートを行います。
- (3) ビジネス用のホテルを誘致します。
- (4) ブランド協議会で活発な意見交換を実施します。

### 実行できる人

地域(NPO、営農組合等)、市役所、市民、ブランド協議会(市役所、商工会議所、JA)

## 05 若者や女性の新規就農者の発掘・育成

---

### 現状

- ・ 農業に魅力がないと思っている人が多い。
- ・ 農業にはビジネスチャンスが多くあります。

### 課題

農業の魅力や農業にはビジネスチャンスが多くあることを、特に若い世代や女性に対して積極的にアピールすることによって、若者や女性の新規就農者の発掘・育成を図ります。

### 提案

- ・ 市役所、農協、農業委員会、加西農業改良普及センターの4者が、問題意識を共有して連携する。
- ・ 農業の専門家リストを作成する。
- ・ 公民館活動等で農業の専門家(農業大学、播磨農高等)による公開講座を開催する。
- ・ 公開講座で、農業の魅力をPRし、新規就農者の発掘をする。また、女性がいきいき働ける農業についても積極的にPRする。

### 実行できる人

市役所、農協、農業委員会、加西農業改良普及センター(4者の連携が重要)

## 06 農地の賃貸借と農業経営の構築

---

### 現状

- ・ 耕作放棄地の増加。賃貸借等、その土地を活用することは困難な状況にある。
- ・ 地域ブランドがない。特産品がない。
- ・ 農業で生活できない現状があるため、新規就農者(特に若年層)が少ない。

### 課題

- ・ 耕作放棄地の賃貸借を統括する窓口がなく、現実的に借れる農地もない。
- ・ 農家は生産のみに傾注し、企業経営の概念が乏しい。経営の視点を加えた新しい農業のあり方を模索することで、農業者が生活できるようにする。
- ・ 付加価値の高い加工品を提案する。

### 提案

- ・ 農地の賃貸借を斡旋する仕組みを構築し、それを受ける正式な窓口を設立する。
- ・ 生産中心の農業者と、経営と営業を得意とする商業者が連携する機会を市が提供する。両者が連携すれば、新しい農業経営の形態が生まれ、地域ブランド・特産品の開発につながる。

### 実行できる人

3者(市、農業者、商業者)の連携

## 07 彼岸花のまちづくり

---

### 現 状

- ・ 第4次総合計画のキャッチフレーズは、「花と歴史と愛のまち かさい」であるが、花の街としてフラワーセンター以外は具体的なものをイメージできない。

### 課 題

- ・ 街の話題づくりや観光 PR として、特別なものでない地域に既にある花を利用することによって、花の街のイメージをつくってはどうか。

### 提 案

- ・ 毎年、秋になると市内の至るところで彼岸花が咲いている様子を見かける。これは、お盆を過ぎた頃、成長の勢いが落ちた雑草を、市内の地域住民が一斉に刈るため、草刈直後から急激に成長がはじまる彼岸花のみが他の植物と比べて目立つために起こる現象ですが、市役所が音頭をとって、区長会を通じて、草刈の時期を更に調整できれば、秋の一時期だけではあるが、市内の至る所で群生する彼岸花を觀賞することができる。この提案は、今既にある手間のかからない花を、地域の習慣を利用することによって加西を外部に PR できる活動である。

### 実行できる人

市役所、地域住民

## 08 神戸方面への公共交通の充実

---

### 現 状

- ・神戸方面に通勤する会社員の多くは、北条鉄道ではなく自動車で宝殿駅(約30分)まで行き、電車に乗換えている(パーク&ライドの実施)。この理由は、北条鉄道に乗ると加古川駅まで1時間かかることや、山陽本線の高い利便性(電車の本数が多く、運行時間も長い。)が考えられる。

### 課 題

- ・加西市民の75%は主に自動車を利用している。地球温暖化が叫ばれる中、過度な自動車利用を抑制する必要がある。

### 提 案

- ・神戸方面の通勤者を対象に、北条町駅から宝殿駅又は加古川駅までの直行バスを運行する。
- ・この提案は北条鉄道との競合が問題点として挙げられる。ただ、バスと鉄道の一体経営を前提とすると、1時間に1本しかない鉄道の間にはバス運行を実施した場合、利用者利便は格段に向上するため、駐車料金を支払って宝殿駅まで自動車で行っている通勤者を取り込む可能性がある。

### 実行できる人

市役所、バス事業者

## 09 加西産のお米を市民に支給！！

---

### 現 状

- ・ 加西産のお米は都市部でもおいしいと評判である。近年、加西市民の多くは若年層を中心に非農家であり、その事実を知らないことが多いだけでなく、お米を購入しているケースも少ない。
- ・ 野菜等の栽培は、お米と比べ手間がかかり専門性も高く、経営基盤の弱い営農組合では困難である。ただ、一定レベルの品質のお米を、営農組合で生産することは十分可能である。

### 課 題

- ・ 加西産のおいしいお米を、まず加西市民から知ってもらう必要がある。
- ・ お米は、市内の営農組合で調達可能である。

### 提 案

- ・ 行政からは、こども手当等様々な支給施策があるが、営農組合で作った加西産のおいしいお米の普及を目的として、その施策の一部において、お米の現物支給を実施する。
- ・ この施策を実施することにより、加西市民が地元産のお米のおいしさを知ることが出来るとともに、地産地消の促進にも貢献する。また、この取組みにより、営農組合員は顔の見える可能性が高い相手にお米を供給できるため、やりがいが増すと思う。

### 実行できる人

加西市、営農組合

【未来像 2】

## 第 2 章 子どもが元気に育ち、いきいきと活動する加西

---



アイデアシート 2-1

第2章 子どもが元気に育ち、いきいきと活動する加西			
現状（問題・チャンス）	課題	提案	
		主体（誰が）	具体的な提案（何を）
<p>少子化 ↓ 子ども会が成り立たない 地域コミュニティの子育て力低下</p> <p>大人の地域への愛着が少ない 地域に関心をもつ機会が少ない ↓ 子どもに思いが伝わらない ↓ 大人になって加西を離れる</p>	<p>地域が地域で考えて行動</p> <p>校区単位の組織で自ら考え結論を出し行政に働きかける</p> <p>子どもの笑顔⇒親の安心 幸せへと繋げる目標づくり</p>	<p>自治会・地域リーダー</p> <p>行政</p>	<p>地域議会を作る (課題解決の仕組み作り)</p> <p>制度やルール作り ・地域会議への補助制度の創設 (市民税の〇%)</p>
	<p>ふるさと加西に誇りを持てる まちづくり・人づくり</p> <p>子どもが体験・活動できる機会・場所・行事の提供</p> <p>あたたかさを感じる親子関係作り</p>	<p>ジュニアリーダー</p> <p>青少年センター</p> <p>市役所・公民館・地域のリーダー</p>	<p>ジュニアリーダー活動の活発化</p> <p>積極的に若い人に働きかける ・ボランティアグループの育成 ・発表の場づくり</p> <p>スポーツ・文化活動をしている青少年を応援</p>
<p>高齢者が学校行事の誘いを受けても参加しにくい</p> <p>市立保育所の通常保育時間 16時（18時まで延長保育で対応） （民間は17時等） ↓ 現代の保育ニーズに対応していない ↑ 雇用形態や家族構成が変化</p> <p>子どもの存在が軽視・偏重されている 家庭や地域における子どもの役割がない ↓ 子どもが社会の中で自分の価値を見出せない</p>	<p>幼老交流 (場所づくり) (機会づくり) (ボランティア育成)</p> <p>延長保育等のニーズ把握</p> <p>地域ブランドの育成 特産品の開発</p>	<p>行政・地域</p> <p>老人会・学校</p> <p>行政</p> <p>行政</p>	<p>学校の空きスペースに大人や高齢者と子どもの交流場所を設置</p> <p>学校と地域コミュニティ施設の併設・複合化</p> <p>園庭・校庭を使った畑づくり</p> <p>通常保育の時間 ⇒17:00 または 17:30</p> <p>延長保育手続きの簡素化</p>
	<p>子どもの社会での役割の見直し</p> <p>子どもの社会性を伸ばし生きる力を向上</p>	<p>学校・地域</p> <p>地域</p>	<p>子どもが地域の活動に重きを置く</p> <p>自治会役員がもっと積極的に子育てに取り組む仕組み作り</p>

アイデアシート 2-2

第2章 子どもが元気に育ち、いきいきと活動する加西			
現状（問題・チャンス）	課題	提案	
		主体（誰が）	具体的な提案（何を）
<p>地域と学校（子ども）の交流機会が少ない</p> <p>↓</p> <p>子どもの減少 ↓ 遊び場の減少 集団遊びの減少 異年齢での遊びの減少 外遊びの減少</p>	学校・地域・家庭が協力して地域全体で子育て	学校・地域	
	地域と学校の交流機会を増やす		地域で頑張っている人に学校で話してもらおう機会を増やす
	子育て世代が加西に住もうと思えるような環境づくり		
	遊び場の確保 遊び時間の確保 異年齢交流の促進	行政・学校・PTA・地域・青少年活動団体	土曜日半日登校の再開 ・ 午後に学校の友達と遊ぶ
	小規模校の活性化		放課後の校庭開放 ・ 学童保育の見直し ・ プレーパーク化
	「遊び」が持つ効果や意味の理解		多世代チーム編成による町対抗スポーツ大会
	行政・PTA・商工会議所	小中一貫校で異年齢交流・異年齢交流の幅を広げる	
		「遊び」の必要性を伝える市民学習会の開催	
		携帯型ゲーム機の市内販売禁止	
<p>自然遊びや野外体験・お手伝い（農作業）等の減少 ↓ ケガゼロ・ばい菌ゼロの子どもたち（手厚く守られている）（過度な保護） ↓ 免疫力の低下・大ケガ</p> <p>↓</p> <p>地域への愛着・関心を抱かせるようなまちづくり学習が行われていない</p>	幼少期の経験が生きる力になることの再認識	青少年活動団体・医療関係者・子育て経験者・環境団体・農業関係者	親学習の実施
	加西が世界に誇れる歴史・文化・人材・物が必要	商工会議所・観光まちづくり協会・図書館・自治会関係	体験活動施設の充実 専門員の育成
	農業による人づくり	学校・農業関係者	「遊び」から学ぶ環境学習の実施
			体験活動プログラムの開発
			子ども向け救命救急講習 ・ 自分の命は自分で守れる子どもへ
			「地域自慢大会」の実施 「〇〇日本一」「〇〇世界一」を生み出す
			まちづくり学習の実施
			トライやるウィークに地元農園も

## 10 地域で考え、地域で行動する「地域会議」を設立

---

### 現 状

子どもの人数が減少し、各町内の子ども会が成り立たなくなっています。  
以前のような地域における子どもと大人の関係づくりや、地域や隣近所で子どもを育てる力が、現在は弱くなっていると考えます。  
—自治会だけで、地域課題の解決を図ることが困難となっています。

### 課 題

地域の問題は地域で考えて行動することが基本です。  
そこで、校区単位で、区長会、例えば、まちづくり協議会のような組織を校区ごとに立ち上げます。  
その中で、地域が自ら考え、話し合い、結論を出して、地域自らが実行します。  
地域で話し合った結論に基づき、地域は行政に支援等を働きかけます。

### 提 案

各地域は、地域で自らの代表者を選出し、地域議会をつくり、そこで地域の課題解決を考えます。  
加西市はその制度やルールづくりを整備し、各地域に拡大させます。  
また、市は地域会議に補助金を交付します。例えば、市民税の何%かをその財源に充てる補助制度を作ることを考えます。

### 実行できる人

自治会、地域のリーダー、まちづくり協議会、  
まだ「まちづくり協議会」の設立されていない地域に住む市民、行政

## 11 青少年のこころ豊かなふるさとづくり

### 現状

大人が地域への愛着が小さければ、子どもにも地域への思いが伝わらないと思います。子どもたちの集まる場所も、地域の大人との交流も、自分の生まれ育った地域への関心を深める経験や体験も、子どもたちには乏しくなっています。

地域への関心がないまま、大人になって、ふるさと加西から巣立っていく大人が増えていくのではないのでしょうか。

### 課題

子どもが大きくなったときに、ふるさと加西が大好きで、ふるさと加西に誇りを持てるような人づくりやまちづくりを行うことが大切です。

子ども時代に自分の心や体を通じて体験した記憶はいつまでも鮮明で、いきいきとしたものです。ふるさと加西で、子どもが活動できる機会や行事などの企画を考えることが必要です。

「あたたかさを感じる親子関係づくり」、「子どもの笑顔＝親の安心、幸せ」と感じられる体験づくりには、市の職員や地域のリーダー、公民館、青少年センターなどの役割が重要です。

### 提案

若い人の活動の場づくりには、ジュニアリーダーのような組織の活動を活発にすることです。

- ・ 教えたり教えられる「加西きょうだい作りプロジェクト」
- ・ プロの技を学ぶ「匠クラブ」
- ・ 農業を学ぶ「ぼくもわたしもカントリーBoy」

青少年センターの役割は、非行対策だけでなく、積極的に、もっと多くの若者に働きかけることが必要です。ボランティアのグループ育成、若い人たちのスポーツ活動、文化活動、それらの発表の場づくりなど、姫路市の青少年センターの活動が大変参考になります。

- ・ 思いや考えを出し合う自主企画会議「しゃべり多居話(対話)(仮称)」などのサポート
- ・ 青少年の相談に気軽に応じる「頼れる兄貴サポーター」
- ・ 青少年の活動の場「ゆうゆう広場」をセンター内に置く

スポーツ、文化活動をしている青少年に、市をあげて応援していきましょう。

### 実行できる人

市職員、地域のリーダー、公民館、青少年センター

## 12 地域に開けた学校施設と子どもたちとの交流

### 現状

地域の人づくり、町づくり、人と人との交流が大切です。元気な高齢者は、今後も増えていくでしょう。学校から地域の高齢者への行事参加の案内があっても、自分の孫がいる家でないと、なかなか学校に行けないのが実情です。

地域のお年よりが、学校行事に呼びかけられても、何らかの出番とか役割とか、何か期待される仕掛けづくりが必要です。

### 課題

高齢者が子どもと一緒に過ごし、経験豊かな大人から学ぶことができる機会が、学校に必要ではないかと考えます。高齢者は元気になり、子どもは高齢者から多くのことを学ぶことができます。そのためには、地域のボランティアを育成することが必要です。隣のおっせかいなおじいちゃん、おばあちゃんの復活、あるいは育成です。

### 提案

学校の空きスペースを活用した子どもと地域の大人や高齢者との交流場所を設けます。子どもの数が減少し、園舎や学校の教室に空き部屋や使用頻度の低い部屋が生じます。そのスペースを利用し、地域の大人や高齢者の交流スペースに利用してはどうでしょうか。

地域の皆さんのミーティング、活動場所として開放し、子どもたちや地域の人が自由に入出入り、交流できるように活用を図ります。

空き部屋だけでなく、園庭、校庭を使った畑づくりにも老人会が児童に作業指導や子どもの手の届かない部分の世話をするなど交流づくり、話題づくりができます。

### 実行できる人

11小学校に勤務する先生、教育委員会、見守り隊、ワッショイスクールの皆さん、老人会、PTA、子どもの畑作りを指導できる方

## 13 保育サービスの見直しと保育の申請手続を簡素化

### 現 状

公立保育所の通常保育の終了時刻が16時までというのは、母親が働く家庭、共働きの家庭にとっては送迎が困難な状況にあります。結果として18時までの延長保育のお願いすることになります。

児童福祉施設の基準では保育所の長が時間を定めことができます。民間保育所では通常保育の時間を17時や16時30分に設定するところがあります。各地域、民間・公立によって通常保育の時間が異なっています。

### 課 題

通常保育は16時送迎に対応できる祖父母のいる家族形態にあわせてあります。

雇用形態や家族構成が変化し、新たな保育ニーズに対応すべき延長保育に、各種の手続きが必要になるなど、夕方まで働く女性の世帯が例外視されています。

通常保育、延長保育にかかる時間帯の見直しと、延長保育申請手続きの簡素化することなど、両親の負担を軽減することが課題です。

### 提 案

- ・ 通常保育の時間帯をすでに民間保育で実施している17時、または17時半までにします。
- ・ 民生委員による就労証明など提出書類の添付を無くすなど、申請手続を簡素化します。

### 実行できる人

行政、保育所

## 14 地域全体で子どもたちを見守る仕組み

---

### 現 状

子育て施策だけがひとり歩きし、子どもの社会や家庭での存在が軽視・偏重されている傾向にあると考えます。家庭での手伝いや地域で子どもの役割(仕事)がなく、子どもが社会の中で自分の価値を見出せなくなっているのではないかと考えます。

### 課 題

子どもの社会での役割を見直し、社会の一員としてどのような役割を与えるかを考えます。社会の一員として、子どもの役割を与えることで、子どもの社会性を伸ばし、生きる力を向上させることにつなげていきます。

### 提 案

学校や保護者が、子どもたちの部活や塾などに行かなければいけないという強迫観念、義務的観念を少しでも和らげ、地域の活動を重きに置いてくれるように地域全体で子どもたちを見守る仕組みをつくります。

その仕組みについては、行政だけでなく、自治会長や自治会の役員などがもっと積極的に子育てに関して取り組んでいける体制を整えることが必要です。

### 実行できる人

自治会、学校、教育委員会、地域活動組織

## 15 学校、地域、家庭が協力し合い、地域全体で子育て

---

### 現 状

地域の大人たちとの交流は学校の行事などでは「まち探検」や「地域調査」など様々な取り組みがなされているが、6年間で2回程度しかないのが実情です。地域と学校、子どもたちの交流機会が必要と考えます。

### 課 題

学校と地域の大人たちの交流機会を増やす学校行事づくり、学習づくりなど、学校、地域、家庭が協力し合い、地域全体で子育てをしよう。

そして、子育てする世代が加西に住んでもらえるような環境づくりを進めます。

### 提 案

地域で頑張っている人たちに学校に来てもらい、いろいろな話を子どもたちに聞かせる機会をもっと増やします。その中で、地域と学校と子どもたちとの交流を図ります。

学校の外部から多くの地域の方が来ていただくことより、地元で育った子育て世代がここに住み続けたいと思える環境作りを学校と地域が協力し合って進めていきます。

### 実行できる人

自治会、学校、教育委員会、地域活動組織

## 16 土曜日の半日登校と放課後校庭のプレーパーク化

### 現 状

子どもたちの遊び場が減少しています。

地域の子どもの数も減り、集団遊び、異年齢の遊び、外遊びなども減少しています。

### 課 題

- ・ 遊び場の確保、遊びの時間の確保が必要です。
- ・ 遊びが持つ効果や意味などを親だけではなく、市民が理解を持つことが必要です。

### 提 案

- ・ 土曜日の半日登校を再開します。授業数と遊び時間の両方が確保できます。土曜日の午後は、明るく時間も長い、子どもたちは遊ぶ約束ができます。
- ・ 放課後校庭のプレーパーク化。放課後の校庭開放など、学童保育も遊びの要素を取り込みます。自地域に帰って遊べない子どもは、学校でみんなと遊んで帰ります。
- ・ 町対抗のスポーツ大会。子どもだけでチームが作れないところが多いので、青年、親、高齢者も含めた多世代チームを編成します。
- ・ 「遊び」の必要性を伝える市民学習会を開催します。
- ・ 小中の統合で異年齢交流の幅を広げることを推進していきます。
- ・ 小規模な小学校の活性化

### 実行できる人

教育委員、教職員、議会、自治会、子ども会、婦人会、老人会、商工会議所  
プレーリーダー(若者、学生)、PTA、青少年活動団体、大学教授、青少年本部、  
小学校の統廃合を検討している部署、関係機関

## 17 遊びから学ぶ環境学習

---

### 現状

子どもたちの日常生活はケガゼロ、ばい菌ゼロの手厚く守られ、過度な保護の下にあります。その一方で、自然遊びや野外体験、お手伝い(農作業)など、自然と触れ合う機会が減少しています。

### 課題

幼少期の体験や経験が人生を豊かなものにし、それが、生きる力になるということの再認識が必要と考えます。ケガをしたら、ケガをしないために、病気にならないためには・・・など経験を繰り返すことで、身に付くものがあります。

過度に保護することによる免疫力の低下、ときには人生を変えてしまうような大ケガにつながることも留意する必要があります。

### 提案

子どもの教育だけでなく親学習も大切です。性教育も含め、高校教育での親教育も実施します。遊びから学ぶ環境学習、子ども向け救命救急講習など体験活動プログラムや体験活動施設を充実させて、指導員や専門員を養成します。

### 実行できる人

大学教授、子育て経験者、看護師、医師、青少年活動団体、環境団体、農業関係者 PTA

## 18 子どもたちによる地域自慢大会

---

### 現 状

学校では、自地域への愛着、関心を抱かせるようなまちづくりを進める学習機会が少なく、そのような機会があっても、子どもたちの生活とのつながりが少ないと考えます。

### 課 題

加西市が日本に(世界に)誇れるような歴史や文化、人材、物などが必要です。  
新たに作るものではなくても、今あるものの中から地域の姿を映し出せるものは何かを探し、地域の皆さんと共有することで真のシンボルが形成されると考えます。

### 提 案

地域自慢大会の実施し、加西市ならではの「〇〇日本」「〇〇世界」を生み出します。  
地域が主体となったまちづくり学習の実施。  
地元農園にもトライやるウィークで中学生を受け入れます。農業によるひとづくり。

### 実行できる人

商工会議所、自治会、観光協会、図書館、子ども会、婦人会、老人会、神社、寺院、農協  
農業関係者

## 19 ローカルコミュニティの拡充

### 現状

外で遊ぶ子どもたちが減少し、子ども同士、大人たちとのコミュニケーションが不足しています。昔であれば近所の駄菓子屋などが子どもたちの社交場であり、そこでは情報や知恵、金銭価値等様々な事を学んだように思います。大人とのコミュニケーションは学校では学べない貴重な知識や知恵を学べるはずです。

### 課題

地域の大人たちが主体となり、忙しい子どもたちの日常の一部となるような「社交場」をどう作るかが大きな課題です。高齢者の役割が大きく期待されます。

地域のコミュニティを強化し、総合的な『地域力』を高め、大人への教育を含む青少年健全育成に地域全体で取り組む必要があります。

### 提案

既存する各種団体、メンバー、一般市民から参加を募り、新規団体設立(NPO 等)も視野に入れ、新しい組織づくりを目指します。これらの活動に対し、行政からは補助金や物資、場所提供等の協力を行います。

ワッシュイや見守り隊等、高齢者の活躍の場とします。昔ながらの駄菓子屋的な経営(店舗を構える必要は無し)、や紙芝居や昔遊びを教えてもらえる場を設けます。

各地域で実施が困難な場合、最初は期限付き巡回制で、地区ごとや曜日ごとに始め、その後効果が大きいと認められれば各地域での発足を目指します。

### 実行できる人

行政、小学校、PTA、老人会、地域内の各種 NPO・各種活動団体



【未来像3】

## 第3章 誰もがみんな元気で安心して暮らせる加西

---



アイデアシート 3-1

第3章 誰もがみんな元気で安心して暮らせる加西				
現状（問題・チャンス）	課題	提案		
		主体（誰が）	具体的な提案（何を）	
今の加西市は元気がない	元気な加西にする	地域	市の未利用公共施設を子どもや老人の憩いの場として活用	
加西市に対する不満の声が多い	親世代が加西を好きになる ↓ 子どもたちに住みよい加西であることを伝える	行政	広報に加西の良い面をPR	
放課後支援・障がい者のタイムケア事業等の実施が遅れている	福祉予算を増やす	地域	イベントやボランティア活動に参加する	
		市民	地産地消の推進（市外での外食や買い物減らす）	
		地域・市民	公共施設をもっと有効活用する	
農業高校・農業大学校などの専門教育機関があり卒業生も多い ↓ でも農業で生活している市民は少ない	農業の活性化	野菜 ソムリエ	もっと議会を傍聴して市民の声を行政・政治に届ける	
生活習慣病の蔓延	生活習慣病の予防 ↓ 病気の治療として使える野菜の栽培		地域	病気の治療として使える野菜作りのコーディネーターをする
空き農地や放棄田の増加 農業人口の高齢化 食料生産人口の減少	空き農地の活用		地域	野菜の効能・生活習慣病や体質別料理法などをカウンセリング・指導
地域全体の互助力が低下 家庭の介護力が低下	一人ひとりが持っている力を発揮できる環境づくり ↓ コーディネート機関	NPO (校区毎)	野菜のおいしい焼肉店を開設	
幼保の耐震化・改築が進んでいない	新築・統合の検討を急ぐ	市役所	地域住民の特技や能力の情報を集約しその力を必要としている人と結び付ける	
			自分が提供した労力に応じて労力の提供を受けることができるポイント制の導入	
			学校の再編とリンクして考える	

アイデアシート 3-2

第3章 誰もがみんな元気で安心して暮らせる加西			
現状（問題・チャンス）	課題	提案	
		主体（誰が）	具体的な提案（何を）
<p>保育時間が16時まで ↓ 働く人をサポートできていない</p>	保育時間の延長	保育所・地域	21時までの延長保育 ・地域住民のボランティア活用
<p>市立保育所に臨時職員が多い ↓ 不安定な保育</p>	安定な保育行政	市役所	臨時職員の正職員化 民間委託プログラムの明示
<p>人口増加のための保育行政を進めていない</p>	子育て世代に住んでもらえるような保育行政	市役所	第3子の保育料無料化 三洋電機近くに保育所併設の市営住宅を建設する
<p>保育料が高い ↓ 子どもを産みにくい</p>	保育料の見直し	国・県・市	・児童福祉法・保育料徴収規則等の改正 ・市の補助金の増額 ・収入別に保育料を一律にし支払困難な場合は公費負担
<p>健康な「食」環境が崩れている (食の知識がない) (体に良い物を提供する場がない) (地元産物が評価されていない) (頑張っている生産・事業者が埋没)</p>	関心の無い人への意識醸成	関係団体	知りたいこと・周知したいこと・みんなで共有したいこと等を実施する ・セミナー・講座・ペーパー配布等で知識と意識を高める ・複合的なイベントを行う
	同じ価値観で活動している人を繋げる		
	地産地消の推進 ↓ 経済的自立・地域への愛着・精神的安定		
<p>米どころ加西で稲作が落ち込んでいる</p>	米粉にして消費量を上げる	やる気のある市民	米粉を市民に広める ・新しい稲作の形として生産者の理解を得る
<p>休日夜間にかかれる病院がない ↓ 安心して子育てできる環境が整っていない</p>	小児医療を充実させる	市役所	乳児医療を中学3年まで引き上げる 小児ワクチンの助成 ・ヒブワクチン ・肺炎球菌ワクチン ・子宮頸がんワクチン等 急病センターの設立
<p>育児に費用がかかる ↓ 児童手当が不十分</p>	児童手当の充実	市役所	児童手当の引き上げ
<p>ボランティアが集まらない (社会福祉協議会)</p>	優れた能力を持った市民の情報を	市職員OB	人材登録センターを設置 ・団塊世代の力を活用
<p>婦人会・老人会・頼母子講（たのもしこう）等の寄り合いの減少 ↓ 人間関係が疎遠になっている</p>	人と人との結び付きを取り戻す (人間関係の再構築)	市役所	婦人の力を発揮できる仕組みの構築

## 20 地域力を発揮できるコーディネート機関を設置

### 現状

加西市では地域全体の互助力が低下しており、家庭の介護力も低下しています。それぞれの自立意識は高いのですが、支援が必要な方にとっては住みにくい環境になっているのが現状です。

### 課題

そこで、一人一人が持っている力を発揮できるような環境づくりが必要だと考えますが、個人単位で動くには限界があるので、コーディネートする機関が必要になってきます。

### 提案

小学校区に1ヶ所を目安としてNPO法人に委託し、コーディネート機関となってもらいます。そして、NPO法人が地域にいる方の特技や能力を把握して情報収集し、それらを集約し、その特技や能力を必要とする方に提供することで、地域全体の互助力向上につながると考えます。

最終的には、自分が誰かに提供した時間に応じて、自分が困った時には助けてもらえるといった「ポイント制度」の導入をめざしたいと思います。

### 実行できる人

地域のNPO法人、これから地域のNPO法人を設立しようとする人、地域のリーダー、行政

## 21 安心して子育てできる医療環境を整備

### 現状

加西市には休日や夜間にかかれる病院がありません。

また、病児保育のできる施設がないので、はしかや風疹などにかかった場合、子供は元気なのにも関わらず保育所に預けることができず、やむなく親が仕事を休まなければいけません。

児童手当等も十分ではないため、子育て世代にとっては費用面での負担が大きく、安心して子育てができる環境が整っていないのが現状です。

### 課題

乳幼児等の医療助成の対象年齢を過ぎた途端に通院を中断し、病状が悪化してしまうケースがあります。乳児医療制度の対象年齢の引き上げ、小児ワクチン助成、急病センターの設立、病児保育などといった施策が必要だと考えます。

同時に児童手当の充実、病児保育のできる施設をつくることも必要です。

### 提案

具体的には下記の5項目を提案します。

- ① 乳幼児等医療費助成制度の対象年齢を中3まで引き上げ
- ② 小児ワクチンの助成(ヒブワクチン、肺炎球菌ワクチン、子宮頸がんワクチン等)
- ③ 北播磨地域に急病センターを設立する
- ④ 保育園に病児保育のできるスペースを作ること
- ⑤ 子育て世代の負担を軽減するために児童手当を増額すること

また、児童手当の引き上げや保育所の中に病児保育のできるスペースをつくること、保育士、看護師を確保することも必要です。

### 実行できる人

北播の病院、北播の自治体、保育所の管理者

## 22 子どものために公共施設を有効活用

### 現状

- ・ 今の加西市は元気がありません。地域単位では行事もあり、まとまっている様子ですが、市域となるとまとまり感がなく、元気で活気に溢れる様子は見受けられません。
- ・ 水道料金が高く、住みにくいという不満の声も多くあります。買い物に行ったり、外食に出かけたりするにも、市内よりも他市へ出かけることが多いです。
- ・ 財政難により、学童の放課後支援や障害者のタイムケア事業等の実施が遅れており、子どもを持つ親たちは困っています。

### 課題

- ・ 親たちが加西市を好きになり、仲良く生活することにより、子どもたちに加西市が住みよいところであることを伝える努力をすること。
- ・ 加西を好きになるよう、市民会館・健康福祉会館・アステアかさい等の公共施設を有効活用し、子どもや老人の憩いの場、コミュニケーションの場として活用すること。
- ・ 福祉に関する予算を増やすこと。

### 提案

- ・ 誰もが近所の子どもの見守り声掛けすることから始めます。一つのことで力を発揮しませんが、一緒に取り組むことで元気に活動できるようになります。イベントやボランティア活動に参加することも、活動のつながりを広げていくには大切です。
- ・ 広報に加西の良い面を積極的にアピールすることで、地産地消を意識した市内の消費を喚起します。市内での外食や買い物に目を向けてもらいます。
- ・ 提案だけでなく、プロジェクトを組み、具体的なテーマをあげ、会合を持ちます。
- ・ 市民が議会を傍聴に行くこと、市民の声(不便なところ・危険なところ・困ること等)を行政に届けます。

### 実行できる人

地域住民、市民団体、市内飲食業、市内商店主、行政

## 23 野菜(加西産)の美味しいお店をオープン

### 現状

市内には、農業高校、農大などの専門施設があり、卒業生も多いですが、農業を本職として食べていくことは厳しい状況にあります。農業人口の高齢化、食料生産人口の減少により、市域の空き農地や放棄田を多く抱えています。

消費者側においては、高齢化の進行とともに、便利な生活による身体活動の低下や食習慣の変化により、生活習慣病の蔓延が懸念されます。

### 課題

生産者と消費者の架け橋となる野菜ソムリエが今立ち上がる時です。病気の治療として使えるレベルの野菜作りを目指します。生産者がしっかり作った野菜の効能、生活習慣や体質別料理法などカウンセリングしながら指導を行います。

食料自給の観点からも、異常気象が本格化するので、空農地をほったらかしにせず、何でもよいので作っておかないといけません。

### 提案

野菜(加西産)の美味しい焼き肉屋をオープンします。店が繁盛すると野菜も売れます。2号店も出店を予定しましょう。知名度を上げて加西に出店することで雇用の創出につながり、加西産野菜もさらに売れることとなります。

### 実行できる人

地域、商店主、飲食事業者、農業者、農協

## 24 保育サービスの充実による人口増対策

### 現 状

- (1) 公立保育園の耐震化・改築が現状においても進んでいません。
- (2) 通常保育の時間帯が 16:00 までで、送迎が困難な時間設定になっています。
- (3) 保育所の職員は正規職員よりも臨時職員の比率が多くなっています。
- (4) 加西市は人口増加策のための保育行政がまだ十分進んでいません。現状の高い保育料のままでは、子どもを産みにくいと考えます。

### 課 題

- (1) 公立保育園の新築、統合を真剣に考える必要があります。
- (2) 働く人をサポートするためには通常保育の時間を延長する必要があります。
- (3) 職員の身分保障があつてこそその安定した保育行政です。臨時職員の正職員化を進めます。
- (4) 子ども世代に加西市に住んでもらうことで、人口増加につなげます。収入別に保育料を一律にし、支払困難な場合は公費負担を行います。保育料の算定基準も見直します。

### 提 案

- (1) 学校との統廃合とあわせて、保育所・幼稚園の施設整備を考えます。
- (2) 働く両親にとっては迎えに行く時間が気になるため、21:00 くらいまで預かってくれる保育園があればよいと考えます。地域のボランティアの活用も一つです。
- (3) 正規職員を増員します。民間委託を想定していれば、委託プログラムの明示が必要です。
- (4) 目玉政策として「3 人目の保育料無料化」を提案します。  
三洋電機の近くに保育所併設の市住を建設します。保育料や施設整備には必要に応じて、法改正や市の補助金の増額を行います。

### 実行できる人

国、兵庫県、保育所担当部署、地域

## 25 米粉を市民に広め、特産品として育てる

### 現 状

食の知識がない、体に良い食べ物を提供してくれる場(飲食店)がない、あるいは知らないといった「食」と「健康」に関する生活の情報や環境が欠如しています。

また一方、米どころ加西では稲作が落ち込んで、生産者に作る意欲があっても、十分に米を栽培できない状況があります。地元で育った産物の価値が適正に評価されず、真面目に頑張っている生産者、事業者が埋もれてしまっているのが現状です。

### 課 題

地元の農産品や特産品に関心のない人に対して、いかに関心を持ってもらうかが課題です。

- ・ セミナー講座、ペーパー配布などで知識と意識を高めることが必要です。
- ・ 給食献立表を利用した加西独自の食育情報発信
- ・ 複合的なイベントでPR(まつりなど)
- ・ 飲食店と生産者、他市民など同じ価値観で活動している人たちにつなげる
- ・ 地のものが一番体に合うことを知ってもらう(食育)
- ・ 地産地消を促進することで、経済的自立、地域への愛着、精神的安定を得られる(食育)
- ・ 加西米のブランド化 米粉にして消費アップする

### 提 案

知りたいこと、周知したいこと、みんなで共有したいことなどを企画し、市はバックアップ・アドバイス・マッチングなどを行います。

愛菜館においては、午後に商品が少ないので、商品がなくならないようにするイベントを企画するなど有効活用を図ります。

米粉を市民に広めます。生産者にも、新しい稲作の形として理解を得て、市全体の事業として取り組みます。(生産、飲食業者による米粉製品の開発、家庭における自家米粉の利用などを総合的に)

### 実行できる人

各家庭、生産者団体、市、JA、生産者、市民やる気のある人

## 26 (仮)人材登録センターで、まちの元気を創出

### 現状

ボランティアさんを社会福祉協議会に依頼してもなかなか集まらない現状があります。また、地域においては、婦人会、老人会、頼母子講(たのもしこう)、寄り合いの行事、活動がなくなってきています。人と人との絆や人間関係が疎遠になっていることが問題と考えます。

### 課題

加西市には、それぞれ、色々な知識があり、優れた能力を持っている人が沢山おられるので、その力を市民に伝えられるような企画、情報伝達の方法を考えます。なぜ、人間関係が希薄になったのかを検証しながら、再度、その関係性を取り戻すことに取り組みます。

### 提案

(仮)人材登録センターをつくり、団塊世代の力を活用してまちの元気を創出します。

自分に都合のよい時だけ、人間関係を利用するのではなく、煩わしさを承知の上で、人間関係を再構築していくことを進めます。

区長会のように行政の下請けでなく、女性の能力を発揮できるシステムを構築します。

### 実行できる人

市職員OB(市がフォロー)、地域、市

【未来像4】

## 第4章 地球に優しい環境社会をつくる加西

---



アイデアシート 4-1

第4章 地球にやさしい環境社会をつくる加西			
現状（問題・チャンス）	課題	提案	
		主体（誰が）	具体的な提案（何を）
<p>加西市の交通は自動車中心 ↓ 温室効果ガスの大量排出</p> <p>加西市は天候に恵まれている</p> <p>エネルギー作物が 生産されていない ↓ エネルギーが循環していない</p>	<p>二酸化炭素の減少 『減C<sub>2</sub>』</p> <p>公共交通への BDF等の活用</p>	公共交通事業者	BDFによる公共交通車両の運行
	<p>太陽光エネルギー の活用</p>	企業 市役所	ソーラー発電所の設置
	<p>エネルギー作物の 生産とバイオ エネルギーの活用</p>	市役所 市役所 JA 農業 生産者	エネルギー作物を利用した新エネルギー案の市民説明 エネルギー作物の流通ルートや支援策の整備 エネルギー作物の生産
<p>元気な高齢者の余暇の楽しみ方 (ゲートボールやグランドゴルフ)</p> <p>鞠野飛行場跡が 未利用地のまま (払い下げには時間がかかる)</p> <p>休耕田の増加</p> <p>枯れ草・落ち葉 料金を払ってゴミ処理 ↓ 資源が活用されていない</p> <p>里山 木が繁茂して人が入れない 荒れ放題</p>	<p>高齢者の余暇時間 を農業に活用</p> <p>農産物を循環させる 拠点として活用</p> <p>荒れている 田畑の復活</p> <p>農業への活用</p> <p>里山整備の推進</p> <p>地域社会の 意識変革</p>	<p>公民館 市老連</p> <p>NPO</p> <p>「田畑復活を 考える会」新設</p> <p>森林組合 ↓ ボランティア 会員</p> <p>ボラン ティア 団体</p>	<p>「高齢者園芸交流広場」開設 ・登録制の市民農園 ・いきいき委員会、はつらつ委員会、高齢者大学等との連携</p> <p>鞠野飛行場ファームパーク開設 ・地元産野菜、お土産、食べ物の販売 ・フラワーセンターとの連携 ・近隣都市消費者への販売</p> <p>潜在需要が見込まれる（環境問題を意識している）都会の高齢者層に活動してもらう</p> <p>里山の間伐・柴刈り ・間伐売却費を運営費にする</p> <p>腐葉土基地の設置 ・落ち葉持ち込みで腐葉土と交換 ・腐葉土販売</p> <p>地域社会への働きかけを考え実践する</p>

アイデアシート 4-2

第4章 地球にやさしい環境社会をつくる加西			
現状（問題・チャンス）	課題	提案	
		主体（誰が）	具体的な提案（何を）
山の保水力低下 水量の減 災害の危険性増	里山の大切さを 知ってもらう	地域	万願寺川沿いや加古川流域 との連携
鳥獣被害の増加	里山整備	地域	企業との連携 ・間伐（太陽光→下草生える） ・植林（木の根のネット効果）
豊かな自然が活用されていない	花や樹木を利用した 道路や公園整備	市役所 地域	市民マイスター制度による高齢 者の活躍の場の提供  花街道を作る
花と緑の加西市になっていない	各家庭にいっぱい ある花の活用	各町	町の道路に花や木の名前を付け 街角を装飾 ・今あるものの工夫 ・工夫して各町の特色作り
整備された里山が 市民に知られていない	市民がもっと利用 できるようにする	愛好会	鎌倉山愛好会・善防山を歩く 会・城山に親しむ会等を立ち上 げ登山会実施 ・親子参加イベント ・スポーツクラブ21を活用
「里山問題」 自然が整備されていない ↓ 遊べる自然環境がない ↓ 生産性に乏しい 災害の温床	学校と地域での 里山教育	義務教育 地域	里山の大切さを学校で教える  里山の大切さを地域で教える
	里山整備への 人とカネの投入	市民	教育の促進によってボランティア を増やし里山整備
人口減少 ・ 税収減	人口を増やす	市役所	加西市独自の子ども手当 加西市独自の「大家族割引」 教育料の無料化
	観光客を増やす	市民 市役所	都市景観を整備 花のイメージを全面に出す
	税収を増やす		

## 27 高齢者ための園芸交流広場を開設

### 現状

- ・ 元気な高齢者が増えており、ゲートボールやグランドゴルフで、仲間たちと一緒に余暇を楽しむ光景がよく見られます。
- ・ 広大な土地である鶉野飛行場跡地は今も空き地のまま、未活用のままとなっています。

### 課題

- ・ 休耕田を利用して2～3ヘクタールの菜園を設け、「高齢者園芸交流広場」にします。いきいき委員会、はつらつ委員会と一つになって活動します。高齢者大学を農園で開催します。
- ・ 鶉野飛行場跡地は、国に飛行場の払い下げを求めるだけではダメです。空き地の有効利用で農産物販売の使用許可を申請してはどうでしょうか。

### 提案

- ・ 登録したお年寄りが自由に来て、野菜や花を栽培できる農園を開設します。個人区画を設けるもよし、3～5人で共同栽培もよし。収穫した花、野菜は現地で販売します。将来は鶉野飛行場跡地を検討します。
- ・ 鶉野飛行場にテント作りのファームパークを設けます。地元産野菜の販売、加西産のお土産販売、うまいもの店などを設けて、県フラワーセンターと結び、大阪、神戸、明石、加古川、姫路の消費者を呼び込みます。団体バスが寄る仕掛けづくりも必要です。

### 実行できる人

老人クラブ連合会、公民館、NPO、各自治会

## 28 河川清掃、廃油回収、ソーラーパネルの設置

### 現 状

- ・ 地球温暖化防止や Co2削減に対する国民、市民の関心が高まっています。
- ・ 加西市を流れる川には、大きな河川がありませんが、きれいな清流ともいえず、下水が整備された今も、川の水は汚れています。

### 課 題

- ・ ふるさとの河川を美しく維持するために、年 1 回、クリーン作戦を市内一斉に行います。
- ・ CO2 の削減に向けた取り組みでは、BDF 精製を目的に、天ぷら油の回収をしていますが、まだまだ回収率が低い状況です。
- ・ ソーラー発電パネルを各戸に設置

### 提 案

- ・ 子どもたちが、魚を採って遊べる川を指定します。
- ・ 現在は月 1 回、午前中だけですが、各町に 1 ヲ所、天ぷら油の常設回収所を設置します。
- ・ ソーラー発電パネルは、ローンの交渉が必要ですが、設置費を安くして 20 年月賦で払えないでしょうか。

### 実行できる人

各自治会、各家庭、行政、電力会社、金融機関

## 29 里山整備と腐葉土基地を登録ボランティアで運営

### 現状

加西の里山は木が繁茂して、人が入れない状況です。枯れ草も落ち葉も、中山のクリーンセンターへ持って行って、お金を支払って処分しています。

### 課題

整備の必要な里山 10ヶ所を選定し、10年計画で毎年1ヶ所ずつ柴刈りをします。その間伐材や剪定枝等は、肥料にして野菜の有機栽培に役立てます。

### 提案

- ・ ボランティア 30～50 人を市民から募集し、組合員として登録します。里山整備ボランティアは、月に1日、年間12回、里山で間伐、柴刈りを行います。間伐材の売却費を運営に充てます。
- ・ 市内に4ヶ所の腐葉土基地をつくります。落葉を持ち込んだ人には腐葉土を返します。運営は組合が行い、ボランティアにはわずかなお礼も用意します。腐葉土販売も行います。

### 実行できる人

森林組合、自治会、行政、市民

## 30 地域の里山愛好会を結成

---

### 現 状

鎌倉山、善防山、小谷の城山、畑のゆるぎ岩、栗田の権現山、殿原の庚申山、上野町の石部神社裏山など、各地域で整備された里山を知る人や、それを利用する人は非常に少ないと感じます。

### 課 題

市民がもっと利用するようイベントを行うとか、広報する必要があります。登山は今でも神戸、明石方面から来る人が多くいます。頂上に著名簿箱を設置するなど工夫も必要です。

### 提 案

地域のスポーツクラブ 21 などで、鎌倉山愛好会、善防山を歩く会、城山に親しむ会を立ち上げ、毎月 1 回の登山会を開催します。また里山では、年に 1 回の親子参加のイベントを実施します。

### 実行できる人

自治会、社会教育推進委員会、スポーツ 21

## 31 花咲く街角づくり

---

### 現 状

加西市は花と緑のまちと言われていますが、実際にはそのようになっていません。

### 課 題

各家庭には花がいっぱい。これをうまく活用する方法はないでしょうか。

### 提 案

町の通り、道路に花や木の名前を付け、街角の飾り付けを考えます。お金をかけるのではなく今あるものを工夫して特色づくりを行います。

### 実行できる人

自治会、行政、各家庭

## 32 ふるさとの川と里山を守る

### 現状

山の保水力が低下しています。保水力のある山は天然のダムの効果があり、土砂災害、水害を防ぐ力を持っています。保水力の低下は災害の危険性が高まり、また、山に生息する動植物の環境変化によって、農作物の鳥獣被害にもつながります。

### 課題

- ・ 多くの市民に里山の大切さを知ってもらう必要があります。川上の問題は川下の問題でもあり、海や海の漁の問題にもつながります。
- ・ 間伐をすることで太陽の光が射し、下草が生え、多様な生態系を維持することができます。また、植林は木の根のネット効果により、保水力を向上させることができます。

### 提案

万願寺川などの河川清掃によって川をきれいに洗います。加古川流域や沿岸部の住民、企業との連携、協力も必要です。

### 実行できる人

自治会、森林組合、行政、企業、地域住民

### 33 花や樹木を用いた沿道整備とBDF車両の導入

#### 現状

- ・ 加西市には豊かな自然が残されていますが、その活用がなされていません。
- ・ 市民の移動手段は車中心となっています。

#### 課題

- ・ 花や樹木を利用した道路や公園整備を行う必要があります。
- ・ 公共交通網の見直しが必要です。

#### 提案

- ・ 市民マイスター制度による市民の資質向上と高齢者の活用を図ります。
- ・ 花街道を市内に作り、広げていきます。
- ・ 公共交通機関にはBDF<sup>\*</sup>の導入を図ります。
- ・ 明石、神戸方面への通勤利便性向上と排気ガス減少対策の為に、JR駅までバス利用できるように、加古川駅(宝殿駅)線の路線バス整備をします。
- ・ 現バス路線の見直しと合わせて、デマンドバス等、市民の新たな足となる交通手段を市内全域で整備し、通行車両の低減と利便性向上を図ります。

#### 実行できる人

行政、地域住民、公共交通事業者

<sup>\*</sup> Bio Diesel Fuel (バイオ ディーゼル フューエル) の略。生物由来油から作られるディーゼルエンジン用燃料の総称であり、バイオマスエネルギーの一つ。

## 34 ソーラー発電所を鶉野飛行場跡地に

---

### 現状

- ・ 加西市は年間を通じて天候に恵まれています。
- ・ バイオ系作物の栽培や作付け促進策が展開されていません。

### 課題

- ・ ソーラー発電所の設置、誘致
- ・ バイオ系作物を利用した新エネルギー案を市民に説明し、協力を求めること

### 提案

- ・ 地域農業団体とのタイアップすることで、ソーラー発電所を鶉野飛行場跡地に設置します。販売ルート、補助金等の整備も同時に進めます。

### 実行できる人

行政、農業者、農業団体、地権者、防衛省

## 35 田畑復活を考える会を立ち上げる

### 現 状

- ・ 里山整備が急がれます。荒れ放題の現状を何とかしないと地域整備に結びつけることができないと考えます。
- ・ 休耕田の活用法も検討課題です。

### 課 題

- ・ 地域社会へ意識の変革を呼びかける方法を模索する必要があります。
- ・ 荒れている田畑をどのようにすれば復活させることができるのか、その対策が課題です。

### 提 案

ボランティア(団体等)を設立、あるいは呼びかけによって、地域社会へ働きかけます。具体的には、「田畑復活を考える会」等を立ち上げ、都会の高齢者層に向けて、田畑への潜在的な需要を喚起します。市の活性化の一助として期待が寄せられます。

### 実行できる人

農業委員会、地域住民、農業者、農業団体、都市部の高齢者層

## 36 豊かな自然教育と定住促進

### 現状

加西市は自然が豊かなところと多くの市民に認識されています。

しかし、市域の土地利用については十分に整備されていないために、人を呼び込めるような遊べる自然環境はとて少ない状況です。開発の遅れによって、生産性も乏しく、災害の原因にもつながり、メリットであるはずの自然環境がデメリットになっています。

### 課題

[教育]

- ・ 里山の大切さを学校で教える(義務教育)
- ・ 里山の大切さを地域で教える(ボランティア)

[資金不足(里山整備に金がかかる)]

- ・ 都会の人や若者が取り組むように戦略を立て、山の整備に対するリターンを与える。
- ・ 教育を促しボランティアが増えるようにする。
- ・ 少子高齢化を止め税収を増やす←人口増
  - 子ども手当を加西市独自で出す
  - 大家族割引を加西市独自で出す
  - 教育料を無料化する
- ・ 都市景観を整備し、花のイメージを前面に出すなど市外からの人口流入を増やす
- ・ 観光客を増やす
- ・ 税収を増やす

### 提案

- ・ 先を見据えた戦略を実施する
- ・ 市民ひとりひとりの目先の問題も大切ですが、その根底の問題については、大きな力のある者がしないとけません。

### 実行できる人

教育委員会、学校、地域、行政



【未来像5】

## 第5章 市民参画・男女参画で地域を元気にする加西

---



アイデアシート 5-1

第5章 市民参画・男女参画で地域を元気にする加西			
現状（問題・チャンス）	課題	提案	
		主体（誰が）	具体的な提案（何を）
<b>1. 市民が市政に関心を持ち参画してもらうために</b>			
市民が市政への無関心	市民、企業・団体が市政に関心を持つ。 市民が加西市を愛する	市民・市役所	自治基本条例・住民投票条例の制定
市政に関心があるが、一人では何もできない		市役所	市政改革のキーになる職員を市民から採用
議会に市民の代表の意識が低い		議会	議会基本条例・議員定数の改正など、議会改革の実施
企業・団体が市政に無関心		企業・団体	公民連携の推進による市の事業への参画、経済活性化
市職員が地域活動に熱心でない	市職員の市民リーダー化	市職員	地域活動への積極的な参画・祭り等のリーダー
市役所の市民参画者への対応が悪い	市民参画者の満足度向上と協力体制の構築	市役所	市民参画者に対するフォロー・フィードバック等のインセンティブの実施
<b>2. 地域組織・市民グループの連携強化</b>			
地域組織間の連携・協力体制が円滑でない	区長会、老人会、婦人会、子ども会、PTA等の各種団体の提携強化	地域	交流・協議の場を設定する 合同訓練や活動交流の場を設定
市民グループの活動が効率的ではない	各グループの交流・連携の推進	市役所・市民グループ	各グループの活動の相互理解、交流の場の提供
<b>3. 各自治会で市民参画・男女参画の啓発を</b>			
市民参画・男女参画が進展していない	啓発活動の推進	区長会・教育委員	地域毎・学校ぐるみで啓発活動を実施 ・わかりやすい言葉や事例を用いて児童生徒から高齢者まで対象とする

第5章 市民参画・男女参画で地域を元気にする加西			
現状（問題・チャンス）	課題	提案	
		主体（誰が）	具体的な提案（何を）
<p>4. 外国人の視点を入れた安心・安全のまちづくり</p> <p>在住外国人と日本人が相互理解して人権を守りながら暮らせていない ↓ 生活のストレスから犯罪者</p>	<p>多様な主体（特に外国人）の視点を入れた政策</p> <p>国際感覚豊かな人材を育成する体制の充実</p> <p>ダイバーシティ社会の実現</p>	<p>区長会 ・ 教育委員会</p> <p>在留外国人</p>	<p>多文化共生センターの設立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活情報の多言語翻訳</li> <li>外国人の生活相談</li> <li>外国人同士のネットワーク構築</li> <li>外国人貧困層への住宅供給</li> <li>職業訓練支援</li> <li>企業がグローバルな環境を整える支援</li> <li>教育現場での国際理解</li> </ul> <p>外国人の行政への参画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市職員</li> <li>各種会議や行事への参加</li> </ul> <p>地域への参画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>お隣さんとの交流</li> <li>地域のまちづくりへの参加</li> </ul>
<p>5. 高齢者の地域貢献、老人会による生産性の向上</p> <p>少子高齢化 ↓ 集落の田畑・山林を維持できなくなる</p> <p>老人会が高齢化率 25%を直視し意識を変えて活動している</p> <p>子育て支援を将来投資と考えている人が少ない</p> <p>食料自給率 50%を目指すという国策</p>	<p>少子高齢化の影響把握</p> <p>子育てファミリー層が住みたいような環境づくり</p> <p>子育て支援 現実的かつ効果的な出産増加策</p> <p>新住民の住宅確保 都市住民の滞在先確保</p> <p>農業王国の復活 ↓ 雇用の確保</p>	<p>市役所</p> <p>地域</p> <p>地域・市役所</p> <p>国・県・市役所</p> <p>地域</p> <p>JA ・ 農業委員会 ・ 加西農業改良普及センター</p> <p>地域</p>	<p>県や市の助成制度や情報を積極的に地域に提供する</p> <p>地域のボランティアによる0歳～小学校低学年の預り保育無償実施</p> <p>誕生祝金・入学祝金の創設</p> <p>農業振興地域に新規住宅が建てられるよう法令改正を行う</p> <p>住居と農業をセットした滞在型農業拠点として空き家を活用</p> <p>大規模農家・企業・営農組合の育成</p> <p>都市圏への農産品販路拡大</p> <p>中高年の技を生かした農産物を生産し朝市で販売する</p> <p>女性リーダーを発掘し地域活動</p>
<p>6. 企業誘致、農産物の販売体制の構築</p> <p>産業に関する詳細なデータがわからない</p> <p>品質の良い農作物の生産（ぶどう・トマト・大根等）</p>	<p>加西の内発的発展</p>	<p>市役所 農業団体</p>	<p>加西の産業の分析 →市外からの企業誘致 →農産物の市外への販売体制の構築</p>

## 37 市民が市政に関心を持ってもらうために

### 現 状

- (1) 市政への関心が低い。議会には市民の代表という意識が低い。  
市と議会とのねじれ現象があり、市民の市政に対する関心度は低い。それが投票率に現れています。
- (2) 市職員が地域活動に熱心ではありません。市の職員だから、一步引いて、前面に出てこない。特に若手職員に顕著。市民と市職員の間には壁があります。
- (3) 市民ワークショップやイベントのボランティアなどの市民参画を実践しても、達成感が薄いように感じます。

### 課 題

- (1) 市政に関心を持たせる仕組みを検討する。
- (2) 市職員も市民の一員、市民リーダーとして行事や活動で動けば市民の視る目が変わります。
- (3) 市民参画者の満足度向上により、継続した参画の促進、協力体制の構築を目指します。

### 提 案

- (1) 市政への関心度を上げるために、自治基本条例及び住民投票条例の制定が有効です。  
議会改革のためには、議会基本条例の遵守、さらには資質の高い議員を選別する観点から議員定数の改正を議会自ら検討していくことも有効です。
- (2) 市民参画者に対しては、成果物のフィードバックや進捗状況の報告などを必ず行います。
- (3) 地元企業は市の民間委託への参画、民間ノウハウを活用した事業提案を行います。
- (4) 市職員の意識と行動の変革。地域活動への積極的な参画や祭り等のリーダーとして育成します。

### 実行できる人

市役所、議会、市職員、地域団体、企業

## 38 地域組織・市民グループの連携強化

### 現状

- (1) 地域組織間の連携・協力体制が円滑に行かないケースがあります。PTA との協力ができず、小学生の「見守り隊」から老人会が手を引いた事例があります。
- (2) 市民参画が未成熟。市民団体やサークルは定期的に催事を行っているが、一つにまとまった動きが少ないのが現状です。自己満足に終わっているのではないのでしょうか。

### 課題

- (1) 区長会、老人会、婦人会、子ども会、PTA等の各種団体の横のつながりの強くします。組織間で子供を守る、お年寄りを助けることに関して話し合い、協力体制を作ります。
- (2) 市民団体やサークル等が、みんなで集まる場を提供します。手をつないで連携し、「加西市を元気にするという気持ち」になったとき、協力体制が生まれ、爆発的な力が出ます。

### 提案

- (1) 地区が中心となって、交流・協議の場を設定します。相互に協力できる場面を話し合ったり、市内の好事例を集めて参考にするところからはじめます。
- (2) 市民グループの活性化には、市が合同事業や活動交流の場を設定します。各グループの活動内容を相互に理解する機会ができます。事業運営は、大きな団体・サークルが全体をまとめリードしていきます。

### 実行できる人

区長会、老人会、婦人会、子ども会、PTA等の各種団体、市民団体・グループ、市役所、市職員

## 39 各自治会で市民参画・男女参画の啓発を

### 現状

市民参画・男女参画がなぜ進まないか。また、人口増加を阻害する問題は何であるか。

- (1) 目立つことを嫌う気質
- (2) 若い世代(児童生徒)からの男女参画意識が持てる教育が欠如
- (3) 学童保育、特に障がい児の学童保育が少ない。学童保育は、女性の社会参画には欠かせない市民サービスです。学童保育が充実している地域に移り住むことによって人口流出につながります。
- (4) 介護等に関する意識

### 課題

地域ごと、学校ぐるみで、啓発活動が必要です。

### 提案

区長会から各町に、教育委員会から各小学校・中学校に、地域ごと、学校ぐるみで、啓発活動を実施します。わかりやすい言葉や事例を用いて児童、生徒から高齢者までを対象とします。

### 実行できる人

区長会、教育委員会

## 40 外国人の視点を入れた安心・安全のまちづくり

### 現状

加西市も将来的には外国人労働者が増加していくと予想されます。しかし、市在住外国人と日本人がお互いに理解して、人権を守りながら暮らしているとは言えません。生活のストレスから外国人による犯罪も懸念されます。外国人の視点を入れた安心・安全のまちづくりが行われていません。

### 課題

- ・ 多様な主体、特に在住外国人の視点をいれた政策が必要です。
- ・ 国際感覚豊かな人材を育成するための教育を充実させます。
- ・ 多様な主体とその価値観を認め合い、人としてお互いに尊重し、地域で共に支え合い、協力して暮らして行けるようにする。そのためには、グローバルな視点に立った意識改革、情報収集と発信、生活向上のためのサービス提供を行います。

### 提案

- ・ 多文化共生センターの設立
- ・ 生活情報の多言語翻訳
- ・ 日本語教室の充実
- ・ 外国人のための生活相談
- ・ 外国人同士のネットワークの確立
- ・ 外国人貧困層への住宅、職業訓練等の支援
- ・ 企業のためにグローバルな環境を整える支援(民間レベルの文化・経済・学術の交流)
- ・ 教育現場での国際理解
- ・ 外国人の行政への参画 : 職員採用、各種審議会への参加、行事への参加
- ・ 外国人の地域への参画 : お隣さんとの交流、地域のまちづくりへの参画

### 実行できる人

市役所、関連機関、NPO法人、外国人

## 41 高齢者の地域貢献、老人会による生産性の向上

### 現 状

少子高齢化の進展により街の活力が失われていくと考えます。集落においては共有財産(田畑・山林)を維持する稼働力が不足し、限界集落の出現が想定されます。

### 課 題

少子高齢化が、10年後20年後どんな影響を与えるかを、しっかり議論し、市として整理することが必要です。新たな子育てファミリー層が住みたいような環境を作り、人口の増加対策を考えることが求められています。具体的には以下の課題に取り組めます。

#### (1) 子育て支援

- ・ 子育て支援は将来投資と位置づける
- ・ 物心ともに安心して出産・子育てできる環境づくり
- ・ 私学・付属小中学校に生徒を持っていかれない学校づくり

#### (2) 新住民の住宅確保、都市からの滞在先確保

- ① 新規住宅建設地の確保
- ② 高齢化に伴う空き家・休耕地の有効活用
- ③ 都会との交流促進

#### (3) 雇用の確保

- ・ 企業誘致に加えて、農業王国の復活は避けて通れない施策です。
- ・ 中高年の技をビジネス化

#### (4) 女性の地域活動への参画

### 提 案

地域の課題の解決の推進役は、各町あるいは地域の住民です。市、県は物心両面で支援します。市役所職員は地域の課題解決に住民と同じ目線で参画し、市各部とのパイプ役になり、助成制度や様々な情報を積極的に提供します。高齢者の地域貢献は必須、老人会の方向性を生産性に向かわせます。

## 提 案

- (1) 子育て支援
  - ・ Uターン対策に本格的に取り組む。
  - ・ 中高年齢層や老人会による0歳～5歳、小学校低学年の預かり保育の無償実施。
  - ・ 誕生祝金・小学校入学祝金の創設。3人目の子供には、高額な祝い金を支給することも検討。市は一部補助を通じて人口増の必要性、姿勢を示す。
  - ・ 学力・体力に優れた小学校を目指す。
- (2) 新住民の住宅確保、都市からの滞在先確保
  - ・ 農業振興地域における特別指定区域に新規住宅が建てられるように法令改正を行う。
  - ・ 空き家対策として、住居と畑をセットした滞在型農業の拠点として活用。貸農園、生産指導の短期滞在も受け付ける。
  - ・ 自然とのふれあいの環境作り、里山ふれあいの森と都会との交流を積極化
- (3) 雇用の確保
  - ・ 大規模農業家、企業・営農組合を育成する。
  - ・ 都市圏などへの販路拡大
  - ・ 中高年の技を活かした稲、野菜を作り、朝市の毎週営業による安定収入の確保
- (4) 女性の地域活動への参画
  - ・ リーダー的役割のできる人、まとめていく力のある人を発掘して、目的を明確にした中で登用していく。

## 実行できる人

- (1) 子育て支援  
市役所、地域団体、区長会、協議会
- (2) 新住民の住宅確保、都市からの滞在先確保  
市役所、地域団体・住民
- (3) 雇用の確保  
市役所、農協、農業委員会、加西農業改良普及センター
- (4) 女性の地域活動への参画  
地域団体、区長会、協議会

## 42 企業誘致、農作物の販売体制の構築

### 現 状

- ・ 各産業における詳細なデータがあり、それを行政は把握しているか？  
データを分析することにより、何か見えるものがあるのではないのでしょうか。
- ・ 加西市は、工業統計によると「家電製品製造」「金属製品製造」を主体とする第二次産業が中心です。農業においては、「ゴールデンベリーA」「とまと」「大根」等、品質の良い農作物を生産しています。

### 課 題

加西市の「内発的発展」を考えます。第一次・第二次産業の基盤があるので、これを基にした地場産業を見直し、更なる発展を図ります。その前提となる産業関連のデータが必要です。

【第一次産業】 農産物の販売状況は？売れ筋は？「加西ブランド」が知られているかどうか？

【第二次産業】 製造業の種類は、具体的な業種、会社名？関連企業はどこか？

### 提 案

加西市の産業の分析を進め、更なる発展を目指します。

①域外からの企業誘致

②域外への農産物の更なる販売体制の構築

を通じて、内発的発展とともに外発的発展を創造します。

### 実行できる人

市役所、農協、加西農業改良普及センター、商工会議所

## 市民参画ワークショップ会議について

加西市第5次総合計画策定にあたり、ひろく市民の方からご意見をいただくために39名の市民委員にご参加いただき、全4回にわたり市民参画ワークショップ会議を開催いたしました。

会議の日程や内容、ご協力いただいた委員の方々は以下のとおりです。

### ◆第1回(H22.2.28開催)

5つのグループに分かれ、各テーマについて課題の洗い出しを行い、最後に各グループの代表者が発表を行いました。

### ◆第2回(H22.4.20開催)

第1回の会議を踏まえ、加西市の現状や今後重点的に取り組むべき課題について、各グループで活発な意見交換を行いました。

### ◆第3回(H22.5.22開催)

第2回の内容を踏まえ、委員の方々に「現状→課題→提案→計画案」というシナリオを描いていただき、グループ内で議論を交わしていただきました。

### ◆第4回(H22.6.26開催)

これまで各グループで議論してきた内容を取りまとめてグループの代表者が発表を行い、全体で討議を行いました。

### ■市民参画ワークショップ委員名簿（順不同、敬称略）

グループ1	グループ2	グループ3	グループ4	グループ5
産業と経済が元気を取り戻す加西	子どもが元気に育ちいきいきと活動する加西	誰もがみんな元気で安心して暮らせる加西	地球に優しい環境社会をつくる加西	市民参画・男女参画で地域を元気にする加西
松尾悦子	桜井公治郎	石橋和子	山本喜代子	丸岡肇
吉田美津代	市浦央子	深田照明	池田夕姫	出井由美
石田雅信	織田智子	露口美也子	藤田孝	伊賀壽昭
岡田毅	金志直美	酒井圭子	大氏悦子	吉田一成
大豊雅宏	谷川賢次	三枝正男	岡本教穂	上田昌善
池田義人	高見昌伸	中右厚子	別府直	福永桂子
村上尚美	小谷安富	土本昌幸	小田達也	高嶋ひとみ
松末立身	菅野将志	村上弘幸		大西悟史